# 令和5年度 長和町教育委員会の点検・評価報告書 (令和4年度事業)

令和5年12月 長和町教育委員会

## 1、はじめに

平成19年6月に学校教育法、地方教育行政の組織及び運営に関する法律、教職員免許法 及び教育公務員特例法の教育3法が改正され、改正教育基本法の新しい理念を踏まえた地方 教育行政が行われることとなりました。

特に、平成26年12月には地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部が改正され、 教育委員長と教育長の一体化など教育委員会の責任体制の明確化が図られるとともに、教育 委員会が効率的な教育行政を推進し、説明責任を果たしていくために、教育委員会自らの権 限に属する事務の管理及び執行状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書 を議会に提出するとともに、公表することが義務付けられました。

長和町教育委員会では、決算審査時に提出する町政白書にて、各事業の現状と問題点、主な事業とその成果、また今後の対策について議会に報告をしてきたところでありますが、地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づき令和4年度の主要な施策や事務事業の取組みについて点検評価を行い、報告書として作成しましたので報告します。

## 2、教育委員会の開催状況

定例教育委員会は毎月1回開催するほか、必要に応じて臨時の委員会を開催しています。

• 令和 4 年度実績 定例教育委員会 1 2 回 臨時教育委員会 1 回

## 3、教育委員会会議内容

会議名等	期日	主な会議事項
4月定例教育委員会	4月4日(月)	・令和4年度人事異動について ・令和3年度卒業生の進路について ・令和3年度児童クラブの申込み状況について ・令和4年度生涯学習講座・スポーツ教室の開催について ・「まん延防止重点措置」終了後の学校運営について ・男女共同参画計画の改定について
5月定例教育委員会	5月13日(金)	・令和4年度各学校の運営について (長門小学校・依田窪南部中学校・和田小学校) ・古町コミュニティ施設建設工事について ・教科書採択における公正確保の徹底等について
6月定例教育委員会	6月6日(月)	・長和町地域共生社会実現のためのコミュニティ施設 設置条例及び施行規則の制定について ・令和4年度歴史遺産を活かした国際交流事業について ・県及び町教育委員会相互の任免及び人事に関する了 解事項の取り交わしについて ・長門小学校学校給食試食会について ・スポーツレクリエーション祭 2022 依田窪プールま つりの開催について
7月定例教育委員会	7月6日(水)	・新型コロナウイルス感染症に係わる学級閉鎖について ・議会6月定例会一般質問について ・体育施設使用許可申請書の減免基準について ・地方創生臨時交付金を活用した事業について ・古町コミュニティセンターカフェ及びこまちの道備 品購入事業提案書について
8月定例教育委員会	8月3日 (水)	・長和町学生等の就学・生活を支援する給付金支給要綱の制定について ・就学援助(準要保護)認定審査について ・古町コミュニティセンター竣工式について ・新型コロナウイルス感染症の状況について ・第 18 回黒耀石のふるさと祭りについて

9月定例教育委員会	9月5日 (月)	・長和町奨学金の貸与に関する規則の改正について ・長和町教育支援委員会の判断結果について ・新型コロナウイルス感染症の状況と対応について ・議会9月定例会一般質問について ・デジとしょ信州について ・令和4年度長和町スポーツ講演会について
10 月定例教育委員会	10月4日 (火)	・令和3年度決算について ・令和4年度9月補正予算について ・人権擁護委員の推薦について ・教育委員会の諸行事について
11 月定例教育委員会	11月4日(金)	<ul> <li>・令和4年度全国学力テストの結果について</li> <li>・令和5年度二十歳を祝う式(案)について</li> <li>・長和町総合文化祭の開催について</li> <li>・ふれあい館祭りについて</li> <li>・差別をなくす町民集会について</li> <li>・佐久大学人間福祉学部市町村推薦入試について</li> </ul>
第1回臨時教育委員会	12月5日(月)	・長和町教育委員会委員の選任について ・教育長職務代理者の指定について
12 月定例教育委員会	12月5日(月)	・長和町児童クラブ運営要綱の一部改正について ・令和4年度全国学力テストの結果について ・令和5年二十歳を祝う式について ・議会12月定例会一般質問について ・withコロナの中での事業実施と今後の在り方について
1月定例教育委員会	1月6日(金)	・長和町児童クラブ運営要綱の一部改正について ・長和町教育委員会の点検・評価報告書について ・議会 12 月定例会一般質問について ・令和 5 年おたや祭りと山車保存協賛について ・児童発達支援・放課後等デイサービス事業について
2月定例教育委員会	2月3日(金)	・令和5年度教育委員会関係当初予算案について ・小中学校の卒業式・入学式について ・児童発達支援・放課後等デイサービス事業について ・長和町映画上映会の開催について

3月定例教育委員会	3月2日(木)	・小中学校の卒業式・入学式について ・区域外通学について ・別荘オーナーの体育施設使用料について ・議会3月定例会一般質問について
-----------	---------	--

## 4、点検・評価について

## (1) 対象事業

評価対象事業は、令和4年度主要施策の成果報告書(町政白書)に掲載された教育課関係の事業より抜粋して点検・評価の対象としました。

## (2) 評価の判断基準

評価にあたっては、対象事業ごとに現状と問題点、事業とその成果、今後の対策について検証を行い、総合的に自己評価を行いました。なお、評価基準は次のとおりです。

区分	内容
А	成果が上がっている。 期待以上
В	成果がやや上がっている。 期待どおり
С	成果があまり上がっていない。 期待をやや下回っている
D	成果が上がっていない。 期待以下

## 5、点検・評価結果

## ◆学校教育係関係

番号	事務事業名	評価	備考
ш /Л	<b>单切</b> # 禾石	нт ішц	υн
1	教育委員会	В	予定どおりに開催されており、適切な時期に適正に審議がされた。
2	総合教育会議	В	適切な時期に、必要な内容が協議されている。
3	教員用住宅管理	С	老朽化により管理が行き届かない箇所 がある。
4	高校等通学費補助	A	町独自の補助であり、手厚い支援がされている。
5	就学援助関係事業	В	町として相談支援体制が確立でき、適正 な援助がなされている。
6	奨学金及び奨学金貸付運営委員会	В	前回コロナをはじめ急激な経済変動に 対応する要綱の改正を行い、貸与要件を 緩和したが、前年並みの貸与件数があっ た。
7	給食無償化事業	A	町独自で手厚い支援ができている。
8	新型コロナ対策事業	A	補助事業により衛生用品、備品が整備され感染予防が十分できた。
9	小学校改修工事	В	屋根外壁の改修が完了し、老朽箇所が改善された。
10	小学校空調設置事業	В	令和4年度繰越し事業で和田小学校ランチルーム空調国庫補助が採択された。
11	GIGAスクール対応事業	В	教員向けの研修、生徒の授業での利活用 を並行して実施した。授業への支援員の 配置について、手薄な状況となってしま った。
12	通学路安全点検	В	全体的な通学路の点検により関係各所 への対応の要望により、改善が今後図られる。
13	スクールバス運行事業	В	小中学校の児童・生徒に対し、町独自の 手厚い支援ができている。
14	複式学級対応	В	関係者への十分な説明と検討により、ス ムーズな移行が図られ、順調に実施され た。

## ◆文化財係関係

<b>▼</b> 入			
番号	事務事業名	評価	備考
1	原始・古代ロマン体験館及び黒耀石体験 ミュージアム運営事業	В	「星くそ館」の開館とマスメディア等のPR効果によって新型コロナ禍にありながら個人利用者の増加が著しい。
2	史跡星糞峠黒耀石原産地遺跡保存整備 事業及び発掘調査事業	С	身障者対応の環境整備、並びに災害対応 の復旧整備も迅速に執行できたが、報告 書作成事業は、先送りとした。
3	「黒耀石のふるさと」創生事業	В	新型コロナ禍対応のイベントにも、予想 以上の参加者が訪れ、継続性が図れた。
4	日本遺産事業	С	広域型日本遺産活動については、地域単位の活動は維持されているが、新型コロナ禍により広域的な活動展開は低迷している。
5	歴史遺産を活かした国際交流事業	В	訪英等の活動は中断したままであるが、 4期生の参加や英訳本の刊行など、新た な取り組みも加わり、地道な活動が継承 されている。
6	埋蔵文化財発掘調査出土遺物整備事業	A	男女倉遺跡群の資料整理が順調に進んでいる。
7	町内遺跡詳細分布調査	С	緊急調査が優先されたため、実施時期を 変更し、規模を縮小して行った。
8	町内遺跡確認調査	A	県の指導支援により、遺跡規模に対して 通常ではありえない期間で調査を無事完 遂し、内容としても大きな成果を得るこ とが出来た。
9	長久保宿・和田宿文化財施設運営事業	С	コロナ禍の影響が長引くなか両宿場文化 財施設ともに団体利用の減少が顕著。
10	長久保宿・和田宿保存整備事業	В	長久保宿旧本陣が史跡中山道に追加指定される。
11	長和の里歴史館・長和町文書館	В	搬入史資料の整理収納が概ね順調に進む。
12	町指定文化財補助·町歴史的景観保全事 業補助	С	コロナ禍のため伝統行事の規模を縮小す る等、影響が長引いている。
	·		

## ◆社会教育関係

番号	事務事業名	評価	備考
1	公民館生涯学習講座等	В	新型コロナ感染状況を勘案しながら日程 変更、一部休止等の対応はあったものの 事業実施はできた。
2	青少年関係事業	В	コロナ対策を行いながら、例年通り教室 の開催ができた。
3	社会体育関係事業	В	コロナ禍の中であっても行えるイベント の計画・実施ができた。
4	社会教育関係施設整備事業	В	古町コミュニティ施設については、埋蔵 文化財が確認される等新たな対応を迫ら れることがあり、完成が遅れたものの適 正に進められた。 予算で計上した施設改修は実施できた。

## ◆人権男女共同参画係関係

番号	事務事業名	評価	備考
1	児童館(児童クラブ)運営事業	В	事業が適正に処理できた。
2	隣保館・人権教育	В	差別をなくす町民集会を開催した。
4	男女共同参画事業	В	第2次男女共同参画計画の策定を実施した。
5	図書館運営事業	В	エコールの利用増進を図った。

6、評価対象事業の成果及び今後の対策(令和3年度町政白書より抜粋・要約)

## ◆学校教育係関係

## 事業とその成果 今後の対策 1教育委員会 ・令和4年度は、定例会を毎月1回、臨時会を3回 開催した。 ・教育施策に関する様々な事項について、定例教育 委員会及び必要に応じ臨時教育委員会を開催し協 議を行う。

## 2 総合教育会議

- ・令和5年3月に総合教育会議を開催し、学校施設や教育における情報化等の状況報告、協議を行った。
- ・教育に関する重大な施策や緊急の場合に講ずる 措置、また教育大綱やいじめ防止対策など協議し、 町長と教育委員会との連携を図る。

## 3 教員用住宅管理

- ・入居状況は年間入居 12 戸、空きが 4 戸であった。 住宅使用料収入は 675 千円で、施設修繕に 1,463 千 円を支出した。(電気温水器・給湯器他 経年劣化)
- ・建物、設備が老朽化しており、今後も修理・交換 等により対応を行っていくとともに、空き部屋等 の状況も踏まえ町営住宅への移管また取壊しも含 め検討していく。

## 4 高校等通学費補助

- ・令和 4 年度における助成件数は全部で 125 人、総支給額は 10,151 千円であった。区域別内訳は、丸子地区 31 人、立科地区 10 人、その他の地区 81 人、下宿・入寮等 3 人、区域外の中学校への通学者 5 人である。
- ・本制度の周知を町広報紙等により行い、適切な事業の実施を行っていく。

## 5 就学援助関係事業

・就学援助(準要保護)費の支給者は全15件、総支 給額は361千円であった。内訳は、小学校8人、中 学校7人となっている。

入学準備金の前倒し支給は、中学生3件180千円、小学生2件103千円の支出を行った。また、特別支援教育就学奨励費の支給者は7人、総支給額は126千円である。死亡により償還が1名免除となった。(免除額720千円)

・様々な事情を抱えた世帯も多く、非正規雇用など 雇用環境や所得の伸び悩みが依然として変わらな いことから、保護者への周知徹底、経済的な生活実 態の把握に努め、低所得である家庭の支援をして いく。

## 6 奨学基金及び奨学金貸付運営委員会

- ・奨学金は高等学校及び高等専門学校の生徒は月額 25 千円、大学・短期大学及び専修学校の学生は 月額 40 千円を無利子で貸与している。
- 令和4年度は4件の申請があり、審査の結果4件 の貸与が決定した。
- ・申請件数の増加を目標に、今後広報活動の強化を 図る。

(令和 5 年度の運営委員会において、委員より審査基準の緩和、地元に就職した者の償還免除などの提案が出ている)

事業とその成果	今後の対策
7 給食費無償化	
・食材費の支出は 203 名分 15,055 千円、依田窪南	・給食費無償化に伴い、安全安心、地元食材の活用、
部中学校へは 123 名分 7,171 千円、町外の小中学	残飯の削減をさらに奨励していきたい。
校へ通う児童生徒への償還払いは 6 名分 355 千円	
の支出を行った。食材高騰により1食あたり20円	
の材料費の値上げを行った。	
8 新型コロナ対策事業	
・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、衛生用	・マスク着用、手洗い、うがい、消毒の徹底を継続
品を整備した。手指消毒用アルコール、抗体検査キ	する。
ット、配膳台の購入を行い、1,801 千円の支出を行	
った。【国庫補助 900 千円(1/2)】	
・価格高騰に直面する学生等(短大・大学・高専、	
専修学校、予備校)の生活を支援する為、92 名に	
各 30 千円、合計 2,760 千円の給付を行った。(本	
人か親が町内に住所を有する者)	
9 小学校改修工事	
・長門小学校は令和元年度に長寿命化計画を策定	・屋根の防水シート工事、壁の補修と外壁塗装、窓
し、令和3、4年度の2カ年で外壁、屋根の大規模	枠シール取り換え工事。
改修工事を行った。	
令和4年度 工事費49,940千円、設計監理費990	
千円(国庫補助 13, 466 千円)	
10 小学校空調設置工事	
・和田小学校(ランチルーム)	・繰越事業の為、令和5年度に実施する。
令和4年度 繰越事業	
11G I G A スクール対応事業	
・GIGAスクール対応、ICT教育推進のため教	・令和 5 年度も教員用の学習端末の研修会を引き
員向けの研修会を行った。ICTサポーターを配	続き実施する。学習端末の授業への利用、家庭学習
置し、相談支援体制を整えた。	への利用について有効活用を進める。
事業費 2, 200 千円(国庫補助 576 千円)	
12 通学路安全点検	
・千葉県八街市における児童の交通事故被害を踏	・交通安全点検の危険個所について、早急に改善を
まえ、通学路の交通安全点検を実施した。	図るとともに、危険個所の周知の徹底を図る。
13 スクールバス運行事業	
・小中学校のスクールバスの運行委託に加え、蓼科	・関係機関と協議し、適切なスクールバスの運行に
高校のスクールバスについても昨年度に引き続き	努めていく。

運行業務委託を町で行った。

## 今後の対策

#### 14 複式学級対応

・和田小学校において、令和 4 年 4 月に入学する 新 1 年生が 3 名であり、1・2 年生合わせて 6 名の 複式学級を導入した。

児童の学習環境、生活環境に今後も配慮し、検証 を行いながら、更に改善に努める。 ・児童数により教員の配置が決まるが、県基準の特別加配や町費の講師の採用により複式学級であっても効果的な学習ができるようにする。教員の配置に関する基準については、今後も国や県の動向を注視していく。

## ◆文化財係関係

## 事業とその成果

#### 今後の対策

#### 1原始・古代ロマン体験館及び黒耀石体験ミュージアム運営事業

・平成30年に日本遺産に認定されて以降、当地域の黒曜石を始めとする縄文文化に対しての認知度が高まり、博物館においては一般利用者や大人を対象としたパックツアーでの利用者が増加するなど、効果に結びついている。一方新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、林間学校の利用、移動教室の延期、中止が続き、学校団体の利用者数が大幅に減少したが、星くそ館の完成以降、相乗効果により原始・古代ロマン体験館、黒耀石体験ミュージアムの入館者数は、令和3年度の12,227人に対して令和4年度は1.7倍となる21,102人を数え、コロナ禍により町外団体利用が減少したものの個人の体験利用を中心に徐々に復活の兆しが見られた。

・引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大防止策 を講じながら、増加傾向にある家族を中心とした 個人利用者が安心して楽しめる体験等の受け入れ に心がけ、これまでの経験からロコミでの利用促 進の効果も大きいため、丹念に当地域の魅力発信 に努める。

また、団体利用者も、状況によって変動があるため、コロナ禍における受け入れ方法等に創意工夫を重ねる。

## 2 史跡星糞峠黒耀石原産地遺跡保存整備事業及び発掘調査事業

- ・令和3年度に開館した黒耀石原産地遺跡の保存展示施設である「星くそ館」は4月~7月の7カ月間で3,590人の入館者があった。令和4年度は、自然災害による遊歩道のき損といったトラブルもなく、原則徒歩での移動を案内し、徒歩での移動が困難な利用者に対しては職員による送迎を実施した。星くそ館及び遺跡の見学目当ての利用者も多く、間接的にミュージアムの入館者数、記念品等売上げ増に寄与している。
- ・令和 4 年度は遺跡整備委員会及び調査指導委員会を開催し、第 3 期史跡整備に向けた方針の検討を実施した。また、令和 3 年度までの発掘調査事業
- ・令和3年度は、開館初年度で遊歩道の毀損も重なったため、星糞峠への送迎サービスに力を入れたが、次年度以降は、丁寧なアナウンスによって森林公園の魅力を伝えるとともに徒歩での入館利用を促す。また、地域住民向けの見学会や、地元の子供たちが利用しやすいように、授業での利用や休館日である月曜日の臨時会館など新型コロナ禍対策の工夫も図る。
- ・採掘址における木製の掘り棒・ザルなどの有機質 資料は、世界的にも貴重な発見例であるため、展示 コーナーを設けて段階的に実物を公開する。
- ・鷹山遺跡群IXの刊行を目指す。

として実施した第 1 号採掘址より出土した木製の 堀り棒やザル片といった有機物遺跡の一部をミュ ージアムにおいて展示を行った。

保存整備事業 154 千円

発掘調査事業 76千円

## 3「黒耀石のふるさと」創生事業

・史跡公園整備は、星くそ館に直結する作業道の立 枯支障木の伐採し、その除伐材を再利用してウッ ドチップの敷設、ベンチの設置を行った。

#### 事業費 200 千円

(県補助 200 千円:森林づくり推進支援金)

・黒耀石のふるさと祭りは、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、8月から11月に日程及び内容を変更して開催した。主な内容は講演会とトークショーであったが、その様子をYouTubeで配信した。

事業費 364 千円

- ・森林整備は、星くそ館の利用促進を念頭に、環境整備と共に安全対策として長期的に実施してい く。
- ・新型コロナ禍対応のイベントとして状況を判断 しながらワークショップの内容も検討し、継続開 催する。

## 4日本遺産事業

・長野、山梨 2 県 14 市町村で構成される日本遺産「星降る中部高地の縄文世界の活動は、新型コロナ感染症拡大に伴い、今後の事業展開に向けた規格策定が主となっているが、10 月 29・30 日に山口県下関市で行われた「日本遺産サミット in 下関」に協議会代表として参加し、石器づくりのデモンストレーションやミュージアムグッズの販売などPRを行った。町独自の取組としては、町内の日本遺産構成文化財についての情報発信を行うHPの編集委員会を発足して、編集企画に取り組みコラム記事の製作を行っている。

・ポストコロナに向けて日本遺産を構成する文化 財の磨き上げと活用の方向性を検討し、新たな広 域連携への取り組みによる活用推進を図る。

## 5 歴史遺産を活かした国際交流事業

- ・長和町黒耀石大使3・4期生の英国渡航交流事業が予定されていたが、新型コロナウイルス感染症拡大の長期化やロシア・ウクライナ侵攻に起因するヨーロッパ情勢の不安などを考慮し、渡航をさらに1年延期する事に決定したが、8月17日~20日にかけて、研修として長崎県を訪問し、現地博物館において学芸員よりシーボルトについての解説や、英語でのプレゼンテーションについて指導頂いた。また11月16日~20日にかけて、国外の感
- ・変動する国際情勢の中で、国際交流事業の大きな 柱となる『長和青少年黒耀石大使』制度の意義と継 承の在り方を再考し、小・中の一貫した英語教育と 国際理解教育の気運醸成を目指す。
- ・新たな研究成果も踏まえ、地域の歴史を世界的な 視野から捉えなおし、その魅力を広く発信する。

染状況やヨーロッパ情勢が落ち着きを見せたことから、東芝国際交流財団助成金によって職員 2 名とミュージアム名誉館長である矢島國雄明治大学名誉教授との3名でイギリス・オランダへ渡航し、イギリスにおいては、来年度以降の渡航にあたっての打合せと挨拶、オランダではシーボルトコレクションの黒曜石資料を蛍光 X 線による産地推定分析を実施した。

事業費 4,359 千円

(東芝国際交流財団助成金800千円)

## 事業とその成果

## 今後の対策

## 6 埋蔵文化財発掘調査出土遺物整備事業

・信州大学から寄贈を受けた信州ローム研究会の 発掘資料の整理を、平成27年からおよそ10ヶ年 計画で継続的に行っている。これまでの資料整理 の成果の一部は黒耀石体験ミュージアムの展示、 または、文化庁主催の列島展でその一部を公開し た。 ・10 ヶ年計画で整理作業を行ってきた男女倉地区 の発掘資料は、黒耀石研究の発信源となった学史 的な資料である。令和 4 年度は報告書刊行に向け た原稿執筆と図版の作成に着手し、令和 6 年度の 刊行を目指している。

## 7 町内遺跡詳細分布調査

・国、県の指導により、町全域を対象とした埋蔵文 化財包蔵地図の作成を目標として、平成26年度よ り10ヶ年計画で詳細分布調査を実施している。 今年度は古町地区の分布調査を実施し、新たな遺 跡分布の情報を把握した。

埋蔵文化財発掘調査出土遺物整備事業 1,076 千円 町内遺跡詳細分布調査事業 5,226 千円 合計 6,302 千円(国庫補助 3,547 千円) ・町内遺跡分布調査は、県の指導支援を得て人員体制を補い、和田地区の踏査から新たに長門古町地区に踏査範囲を展開する。

## 8 町内遺跡確認調査

- ・町内の開発行為等に伴う埋蔵文化財の保護業務として、令和2、3年度に実施した標ノ木平遺跡及び令和3年度に実施した藤ノ木Ⅱ遺跡の出土物を報告書刊行に向けた整理作業を実施した。 事業費3,404千円(355千円樅ノ木福祉会負担金)
- ・町内遺跡確認調査による埋蔵文化財の適切な保存に努める。
- ・記録保存として発掘調査が実施された標ノ木平 遺跡と藤ノ木Ⅱ遺跡については、報告書刊行に向 けて発掘資料の整理作業を行う。

## 今後の対策

## 9 長久保宿·和田宿文化財施設運営事業

- ・長久保宿歴史資料館一福処濱屋利用者数 約 1,600 人、長久保宿丸木屋利用者数 約 900 人 (冬季間 12/1~3/末の一般公開は閉館)
- ・和田宿本陣ほか宿内文化財施設入館者数 3,076人(冬季間12/1~3/末は閉館)
- ・個人入館者が増加、コロナ禍前に復活。長門小学校、依田窪南部中学校の宿場巡り実施。

・中山道筋の近隣市町や積極的な取り組み行う団 体機関と情報交換、交流促進を図り、中山道の広域 的な保存活用における連携強化に努めたい。

## 10 長久保宿·和田宿保存整備事業

- ・史跡中山道(和田峠道)災害復旧事業 被災 14 ケ所の復旧工事に係わる測量設計業務 測量設計委託料 3,927 千円
  - (国庫補助 2,748 千円、県費補助 117 千円)
- ・史跡中山道長久保宿本陣の座敷棟土地買い上げ 事業費7,500千円(国庫補助6,000千円)
- ・国登録有形文化財建造物申請(意見具申)に伴う 旧和田中学校校舎調査 委託料350千円
- ・町歴史的景観保全事業補助(和田宿たから屋修理 工事補助) 1,488千円

・国史跡中山道追加指定となった長久保宿旧本陣の保存整備を推進し、さらに、両宿場の伝統的建造物については、保存整備に向けた所有者との協議を行うとともに、可能な物件は国の登録有形文化財への登録を図っていく。

## 11 長和の里歴史館・長和町文書館

- ・平成 17 年町村合併文書・資料、和田地区の寄贈 古文書等の整理収納を実施した。
- ・信濃史学会公開シンポジウム「公文書と地域資料の保全」において事例報告を行った。
- ・両宿に所在する近世文書は、長和の里歴史館・文書館への収納保管に向け個々の所有者に啓発を促し、収蔵主要文書は史料集としてまとめ生涯学習講座や小中学校の教材としても利活用を図っていく。
- ・町公文書で保存期限を過ぎたものの将来的に歴史 的価値が生じるものは、長和町文書館(長和の里歴 史館)に収集保管して整理を行い、国立公文書館の 助言指導を得ながら公開基準を作成し、利活用を図 っていく。

## 12 町指定文化財補助・町歴史的景観保全事業補助

- ・町文化財補助他6件2,610千円(各財産区繰入金315千円、地域おこし協力隊(立岩和紙保存伝承等12月1日から1名)活動費362千円
- ・文化財の滅失や散逸を防ぎ、未指定を含めた文化 財をまちづくりに活かし、地域一丸となってその継 承を図るため、国が推奨する地域の文化財の保存・ 活用に関する総合的な計画(文化財保存活用地域計 画)を作成し、国の認定を目指す。

## ◆社会教育係関係

## 事業とその成果 今後の対策

#### 1公民館生涯学習講座等

• 生涯学習講座

- 生任子自再座		
講座 • 教室	参加者数	開催回数・期間
古文書教室	10 名	9回 (月1回)
籐細工教室	8名	5回 (6月~10月)
郷土史を学ぶ会	19 名	11回 (月1回)
英会話教室	12 名	20回 (月2回)
ジュニア英会話教室	14 名	20回 (月2回)
バーニングアート教室	10 名	5回 (7月~11月)
長和町民大学	令和3年度休止	
俳句会・短歌会	8名	10回(各月1回)
長和写真教室	6名	10回 (6月~3月)
ハイキングクラブ	23 名	1回 (7月)
クラフトバンド教室	22 名	5回 (6月~10月)
ピラティス教室	25 名	12回 (7月~12月)
アロマ&ハーブ教室	16 名	9回 (6月~1月)

・生涯学習の成果を発表する長和町総合文化祭は、 3年ぶりに展示発表に限定し11月5日、6日にかけて 開催したが、来年度は芸能発表を復活したい。なが わスポーツクラブは、子ども達が運動する事を楽し み、健やかな成長を促し、青少年健全育成に大きな 成果を上げた。体育施設は和田湯遊パーク体育館、 長門町民体育館を中心に、施設の老朽化が見受けら れる為、年次計画を立て、計画的に修繕等を行って いく。令和5年4月より樅ノ木福祉会の多機能型事業 所わくわくが長門町民体育館の一部を使い開所し た。長和スポーツクラブ、一般利用など共生を図り ながら適正な施設運営・管理が求められる。

#### 2青少年関係事業

- ・成人式は、二十歳を祝う式として令和5年1月2 日に開催した。(対象者47名 参加者38人)
- ・ふるさと探検隊は、「モルック体験会」として 11 月に実施した。(参加者 19人)
- ジュニアスポーツ教室

教室	参加者 数	開催回数・期間
少年野球教室	18名	通年
サッカー教室	19名	通年
バレーボール教室	9名	通年
柔道教室	2名	通年
剣道教室	8名	通年
空手教室	11名	通年
合気道教室	6名	通年
バスケットボール教室	46 名	通年
ジュニアスキー教室	37名	3回開催 (1~3月)
ゴルフ教室	13名	8回開催 (6~9月)
ソフトテニス教室 (たけしスポーツクラブ主催)	11名	通年
キッズダンス教室 (たけしスポーツクラブ主催)	10名	通年

・一貫指導体制の必要性・高齢者の生きがいの場・ 競技種目の多様性に対応するため設立した「ながわ スポーツクラブ」について、小・中学生を対象とし たジュニアスポーツ教室の内容及び活動は充実し てきている一方、高校生以上を対象とした事業につ いては会員数の増加に向けて、新たな企画を考え る。

今後は、いつでも・どこでも・だれでもが参加でき、種目、世代や年齢、技術等についての多様性を包含できる「総合型地域スポーツクラブ」の内容やあり方等について更に研究し、「ながわスポーツクラブ」の育成に取り組んでいきたい。

## 今後の対策

## 3 社会体育関係事業

- ・町民運動会の代替企画として町民スポーツ講演 会を企画したが、コロナ禍により中止となった。
- 社会体育関係事業

大会・イベント名	参加 者数	開催回数・期間
プールで体を動かそう教室	5名	5回開催 (7月~8月)
第 16 回町民ゴルフ大会	54 名	6月26日(日)
町民ハイキング	16名	5月29日(日)
令和4年度町民運動会特別 企画 スポーツ講演会	250 名	10月23日(日)
スポーツレクリエーション祭 「ふれあいウォーキング」	共催	5月15日(日)
スポーツレクリエーション祭 「依田窪プールまつり」	300名	7月17日(土)
スポーツレクリエーション祭 「青木村で遊ぼう」	_	開催中止
スポーツレクリエーション祭 「スケート場まつり」	共催	12月17日 (土)

・時間的な余裕がないことに加え、新型コロナウイルスの感染拡大は、スポーツ及び運動の必要性を認識していても、実際には活動できない人の増加につながっている。

こうした状況を踏まえ、地域住民が気軽に参加でき、多様なスポーツを体験、また楽しめるような各種運動教室を開設し、住民の健康増進の実現を目指す。

#### 4 社会教育関係施設整備事業

- ・古町コミュニティ施設建設事業は縄文時代、平安 時代の遺跡が確認され、発掘調査が必要になり、本 体工事が令和4年度に繰越しとなったが、8月に完 成、9月オープンの運びとなった。
- ・古町コミュニティ施設工事関係

監理業務 2,200 千円(設計監理業務 8,679 千円) 建築関連工事 186,782 千円(310,244 千円)

遊具設置工事 7,590千円

カフェ厨房機器設置工事 4,730 千円

施設內備品購入事業 8,044 千円

※()内は令和3年度事業費

・山の子学園共同村の障がい者支援施設に併設となる古町コミュニティセンターが完成9月に供用開始、10月にセンター内にコミュニティカフェ「YAMACafe」がオープンとなったが、障がい者支援施設の職員、利用者もスタッフとして加わることで、お客様との交流も図れるスポットとして期待される。

## ◆人権男女共同参画係関係

事業とその成果

## 1児童館(児童クラブ)運営事業

- ・長門児童クラブ 長門児童館で実施 クラブ登録者数 94 人
- ・和田児童クラブ

旧和田老人福祉センターで実施 クラブ登録者数 13 人

- ・令和4年度放課後児童健全育成事業(長門、和田児童 クラブ 事業費:16,813 千円、うち補助金国庫:2,383 千円、県費:2,383 千円)
- ・令和4年度児童クラブ利用実績 長門児童クラブ(小学生)7,006人 1日平均29人 和田児童クラブ(小学生)876人 1日平均4人
- ・小学校の長期休暇時は、利用時間が長く児童数も増える事から、午前と午後それぞれ5名交代で対応した。(平日は5~6名で対応)

アルバイトの大学生8人が、元気な児童達と一緒に駆け回って遊んでくれ大変助けられた。代替補助員を含むスタッフが全員で15名になり、勤務態勢の改善に繋がった。有資格者は長門3名、和田1名いる。

- ・季節ごとに「繭玉作り」、「クリスマスクイズ大会」、「ハロウィンお楽しみ会」等の行事を行い、児 童達からは大変好評を得た。
- ・新型コロナウイルス感染予防対策として、加湿空気清浄機の導入(長門4台、和田3台)、施設内の除菌(テーブル、椅子、トイレ等)、児童や職員の手洗い、うがい、手指消毒、といった対策を行った。加えて休校中は、来館時の検温実施や、保護者に対し家庭での様子を聞き取る等、感染の予防に努めた。
- ・新入生の保護者面談をして、家庭環境を知ること ができ、重要だと分かった。

・安全確保の観点から、外遊びは施設の敷地内のみ という事を徹底させる。外の見回りを徹底して危 険箇所を確認する。和田児童クラブの施設利用に ついては管理面にも配慮が必要であり、一層の注 意を払う。

今後の対策

- ・全国的に児童が関連する事件や事故が多い中、安全確保の観点からも支援員、支援補助員の充実が必要である。発達障がいなど配慮が必要な児童(注意されたことを理解するのが難しい児童)が増えている為、児童5人に対し補助員1人が理想と思われる。また、専門分野の先生に常時相談できる現場が望ましい。対応する支援員も安心できる環境整備が必要である。
- ・玄関外の屋根や集会室の雨漏りやエアコンなど、 修理が必要である。
- ・令和5年度から、樅の木福祉会が多機能型事業所 わくわくを長門町民体育館で開所し、障がい児向 けの放課後デイサービス事業を開始した事から、 情報共有などの連携を深めていきたい。

- 2 隣保館・人権教育
  - ・人権の花運動「提供事業」(4月~10月) 町内小学校を対象に、花を協力して育てる事を 通じて、やさしさや思いやりの心を学ぶ中で、人権 尊重思想を育む事を目的として、花の種・プランタ ー・土等を配布(長門小学校、和田小学校)
  - ·新任教職員、人権担当者、新規採用町職員人権研 修会 6 月 15 日

「人権教育を進める上で大切にしたいこと」 講師:前長野県同和教育推進協議会長 永池隆氏 (長門小・和田小・依田窪南部中・役場の計 18 名)

・第 18 回差別をなくす町民集会(12 月 4 日) 講師:露の団姫 氏

講演: 女らしくなく男らしくなく自分らしく 集会宣言の採択、人権標語を会場内に掲示

- 分館長会人権研修(3月28日) 分館長会議に合わせ分館長への人権研修を実 施。
- ・隣保館活動として開催した講座により住民交流 の促進事業を行った。

フラワーアレンジメント教室 8回 初心者向け編み物教室 中止 こども・おとなバレエ教室 各10回

・ふれあい館まつり 11月12日

飲食をしない等、規模を縮小する形で開催 117 名 講演:高齢化や認知症に負けない地域づくり 講師:依田窪病院リハビリテーション科 山崎健 一氏

・日々の暮らしの中での身近な心配ごとや悩みご とに対し、住民が無料で相談を受けられる「心 配ごと相談事業」を、長和町社会福祉協議会と 共同で実施した。 毎月第3水曜日 10:00~ 12:00 会場 町内4カ所(長門老人福祉セン ター、和田コミュニティセンター、長和町役 場、大門基幹集落センター)

相談件数 33 件

・人間としての尊厳と基本的人権の尊重され る社会を実現するため、引き続き人権教育・

人権啓発活動を推進する。

今後の対策

- ・あらゆる差別を早期に解消することを目的 として、適切な施策を行っていく。
- ・地域福祉の推進施設として、関係機関との連 携を強化し地域に密着した事業、啓発活動に取 り組んでいく。
- ・インターネット等新たな媒体を利用しての 差別事象などが発生する中で、国、県、関係団 体と連携を密にしながら対策を講じていく。
- 研修会(リモート研修を含む)への出席、他 地域での現状を知るためにも交流集会などへ 参加することで、正しい知識と最新の状況把握 に努める。

## 今後の対策

## 3 男女共同参画事業

- ・平成19年に策定した「長和町男女共同参画計画」における主要課題や重点目標を、時代や社会の変化、新しい課題に対応できるよう見直しを図るため、「第2次長和町男女共同参画計画」を策定した。また、町民への周知のため、第2次計画の概要版を作成し全戸配布した。(事業費95千円)
- ・男女共同参画推進委員会を立ち上げ、第2次計画に基づく5年間の施策の進め方等について協議した。
- ・第2次計画の施策に必要な基礎資料とするため、住民意向調査を実施する。
- ・様々な分野での女性のチャレンジ支援、能力活用を促進し、地域の特性を活かした積極的な取り組みをするため、庁舎内各部署と連携を図りながら、男女共同参画推進委員会を活用して事業を推進していく。
- ・雇用分野において働く人が性別により差別されることなく、また、働く女性が母性を尊重されつつ、その能力を十分発揮する事が出来る雇用環境の整備のために更なる男女雇用機会均等の推進を図る。

## 4 図書館運営事業

- ・上田市・東御市・坂城町・青木村・長和町内の10の図書館及び図書室から構成される上田地域図書館情報ネットワーク構成図書館(通称エコール)に加盟し、自館分を含め総蔵書数約1,034,400冊(R4年度末現在)の図書を相互貸借出来る。
- ・エコールに蔵書が無い本は、利用者の要望により 県内図書館から相互貸借で取り寄せて貸出を行い 利用者の便宜を図った。
- ・広報に掲載されたお勧め図書などに対する利用 者からの問い合わせがあり、来館された利用者の 貸出率アップに繋がった。
- ・エコールのシステム更新にあわせ、ホームページ がリニューアルされ、スマホ対応画面等の追加に よりWeb 予約希望者が増加した。
- 蔵書数等

当館蔵書数 18,343冊 (R5年3月末現在) 新規図書購入数 311冊 (事業費 549,480円) 新聞購入 2紙

逐次刊行物 8誌 月刊誌、週刊誌、季刊誌

利用実績貸出冊数 6,331 冊、開館日数 273 日1日平均貸出冊数 23 冊、1日平均利用者数 7 人

- ・図書館利用の促進を図るために、町広報紙、町ホームページ図書館コーナーを利用してその存在を広く町内外に知らせ、可能な限りリクエストにも対応する。
- ・利用者のニーズに合わせた選書を行い、尚且つ、 バランスの取れた蔵書構成を心がける。限られた 書架スペースを有効に使うために、適時除籍を行 い蔵書のリフレッシュ化に努める。
- ・インターネット予約は、ネット環境が整っていればどこにいても予約可能な為、直接カウンターに来られた利用者の予約を優先する等高齢者に代表される情報弱者やインターネット利用に制限がある利用者への配慮を引き続き実施していく。
- ・「デジとしょ信州」については、図書館に行くことなく、パソコン、スマホから直接電子図書を借りて読むことができ、期限が来れば自動的に返却される等、利便性の良さが期待できる。今後も引き続き、登録者数、貸出件数の増加に努めていきたい。

## 7、外部評価

## (1) 学識経験者

(敬称略)

水出 一寛	元小学校校長(現 小学校講師)
中原 宏美	元教育委員

(令和5年度評価:令和4年度事業)

## (2)主な意見等

## ◆学校教育関係

- ○高校3年生の保護者の中で、奨学金制度の事が話題にあがりましたが、詳細がわからないという人がほとんどでした。町の就学金制度について広報で周知をして頂きたい。
- ○時間的な制約はあると思うが、できる限り学校へ足を運び、学校現場に対して実感をもって実態把握をしてほしい。
- ○和田小学校ランチルームの空調設置工事は令和 4 年度国庫補助繰越し事業であるが、 未だ工事が行われていないが、早期完了を望む。

## ◆文化財係関係

- ○生まれ育った町の歴史を知る事は、子ども達にとって得るものは大きいと思う。特に長和町の黒曜石は知名度が高く、町の誇れる宝であるので、小学校での授業に取り入れる、3年生の遠足で見学・学習行うなどの取り組みをしてはどうか。
- ○本町に関わる人材(偉人)について、資料を整理し誰でも閲覧できるようにして、もっと幅 広くPRをしてほしい。(淀川茂重氏・福井康順氏など)

## ◆社会教育関係

- ○ジュニアスポーツ教室の活躍はすばらしいが、社会人の方が気軽に参加できる教室、講座を検討して頂きたい。
- ○様々な生涯学習講座があって魅力的ではあるが、平日勤務されている方は中々参加し 難い時間帯で設定されている講座が多い。平日勤務されている方が参加しやすい時間 帯も考慮していただきたい。英会話に興味をもっている人は多く、初心者向けの講座も 開設してはどうか。

## ◆人権男女共同参画係関係

- ○「年々児童クラブの申し込みが増加傾向にあり居場所が不足している」とあるが、どのよう な対応を考えているのか。
- ○住民へのサービスを提供する図書館が、なぜ日曜日休館になったのか。 図書館利用者(町外も含む)や地域住民からするととても不便になる。特に、平日勤めている者や家族で利用したい者等にとっては不便だと思う。「デジとしょ」などデジタル化も始まっているが、紙の本を読みたい人も多い。是非、日曜日は開館してほしい
- ○図書館が狭く、また児童クラブと併設なので中々行きにくい。図書館のスペースをもう少し 広くしていただくとともに、子どもの学習スペースを確保していただきたい。